

顔認証システムを活用した業務の効率化事例 (愛媛県伊方町)

取組概要

今年度から更なるDX 推進及び町内経済の活性化を図るため、町民を対象にデジタル商品券(愛称: サダpay)の運用を開始(R6.5~)し、顔認証システムを活用して買い物ができる仕組みを構築した。

これにより、既存の伊方町地域商品券(紙)がデジタル商品券に移行していくことで業務の効率化(ペーパーレス化)に繋がり、データに基づいた政策立案等にも繋がる取組となっている。

取組の効果

- ・業務の効率化、ペーパーレス化
- ・利便性の向上による利用者の拡大(町内経済の活性化)
- ・非接触による安全、安心な日常生活の環境づくり
- ・スマホやクレジットカードを持たない高齢者のキャッシュレス実現(手ぶらで支払可能)
- ・政策活用できるデータが蓄積される

創意・工夫した点

- ・高齢者でも操作可能なシステムで、データ蓄積により分析が簡単にできる点
- ・特典として新規顔認証登録者に5,000円配付を行い、登録者がチャージする際にはチャージ金額の5%を加算した点(加算上限額1人年間10,000円)
- ・将来的には災害時の避難確認等にも活用でき、他分野で蓄積したデータと連動することができる点

他団体へのアドバイス

顔認証システムは様々な用途で利用でき、活用の仕方によっては大幅な業務の見直しに対応できる可能性を秘めている。
「デジタル」を難しく感じさせることのない、住民への丁寧な説明が必要となる。

人口 8,061 人 (R6.1.1現在)

担当 総合政策課



顔認証でお支払いする場面



伊方町デジタル商品券「サダpay」